



毎月23日は
家庭読書の日

Tamba city library

図書館員がおすすめする

今月の推し本



一般書

『傷の声』

齋藤 塔子／著（医学書院）



複雑性 PTSD を持つ著者が、その短き人生を綴った
自叙伝である。

過酷な家庭環境に育ち、「死にたい」気持ちを抱えながら歩んできた、
ふり幅の大きな人生を描く。

「なぜ自分を傷つけるのか」という疑問に回答をくれる最高の教科書。

傷ついた人に必要なのは、権力や物理的な力で抑え込むことではなく、
ケアであるべきではないかという気づきとヒントを医療従事者に与えて
くれる。

児童書

『海底 11,000 メートルのたんけん』

カタプリト／企画・文 イーリス・オット／絵

藤倉 克則／監修 海洋研究開発機構／監修

ホフマン・ティアーナ優美／訳（パイインターナショナル）



月は地球からすごく遠いのに、行ったことのある人が何人もいるけれど、
海のいちばんふかいところにはほとんどだれも行っていない。

200 メートルより深いところは「深海」とよばれていて、暗くて冷たい
世界が広がっている。たんけんが大好きなユーリは潜水艦にのって海に
もぐることにした！

いろいろな生き物に出会いながら、どんどん海の下へもぐっていく
と・・・。

縦に開く絵本で、海の深さを感じながら、ユーリと一緒にたんけん
にかけてみませんか。